時の流れ

青ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
時の流れ

【Ｎコード】
Ｎ２８９８Ｙ

【作者名】
青ハル

【あらすじ】
工藤新一、いや江戸川コナンは高校生になろうとしていた。
２度目の高校生活・・・。
まさか、いままでとはちがう争いに巻き込まれるとは・・・。
新蘭・コ蘭派の方はやめておいた方がいいかと・・・。

００，プロローグ（前書き）

こんにちは。青ハルです。

似ている作品だあったらスイマセン。
いってくだされば、すぐに削除いたします。

それではどうぞ。

00，プロローグ

工藤新一が子供の姿、江戸川コナンになってから
9年ものの月日がたとうとしていた。
江戸川コナン、灰原哀ともに元の姿には戻れないままでいた。
それどころか、二人は戻ることを諦めている。
その理由は、小学4年生、つまり子供の姿になってから3年後の冬、
黒の組織と対自し、ついに、組織を解隊させたのであった。
しかし、かんじんの薬のデータは無く元に戻ることは、断念せざる
無かった。

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「おはよう、コナン君！ひさしぶりだね。」

彼女は、吉田歩美。かわいらしい笑顔や、やさしく友達思いな性格で
男子から人気がすごいらしい。
また、中学ではサッカー部マネジャーとし帝丹中学を優勝へ貢献し
た一人だ。

「コナン君。また会えてうれしいです。」

彼は、円谷光彦。誰にでも礼儀正しく敬語で話すところは変わって
いない。
そんな彼も、女子に人気らしい。
歩美と同じように、中学ではサッカー部に所属し優勝へ貢献した。

「コナン。あとでイロイロ聞かせろよな！」

彼は、小嶋元太。がっちりした体格と、優れた運動能力から
スポーツ界から注目をあびている。彼は、男女ともに仲がよく仲間
はずれなどが無いようにしている。
中学では、運動部から引っ張りだこで特定の部活には入っていなか
ったらしい。

「・・・貴方達、そろそろ行かないと入学式遅れるわよ。」

彼女は、灰原哀。本名「宮野志保」。元黒の組織のメンバーで、
俺を小さくした薬の開発者だ。昔から子供らしくなく、
ミステリアスなフインキをまとい白い肌や赤みがかった茶髪。
無駄の無い身体で、男なら、いやそうでなくとも誰もが振り向いて
しまうほどの美女だ。
中学では、科学部に所属し何度か賞をとったらしい。

「ひさしぶりだな。遅刻しねーようにまずは走るぞ！！」

そして俺。工藤新一。じゃなかった、江戸川コナン。黒の組織との
戦いが終わり、
中学に上がるとき、両親の勧めでアメリカ、イギリスなど海外へ留
学を決め、
かれこれみんなとは3年ぶりの再開となる。姿は、やはり工藤新一
そっくりに成長した。
また、海外では「美少年探偵」　と呼ばれるようになっていた。

俺はまだきずいていなかった。これからまた、壮絶な争いが始まる
ことに。

００，プロローグ（後書き）

読んでくださった方、ありがとうございました。

もしよろしければ、これからもお願いします。

誤字・脱字、感想等お待ちしています。

０１，入学式（前書き）

前回に続き投稿します。
文才が無いのははかっていますので・・・。

01，入学式

「はぁ・・・。つまんないわね。」

ため息をついている哀ちゃん・・・。

確かに、今はちょっとひまだよねぇ・・・。

「続いて、新入生代表・・・。」

だれかな?やっぱり、光彦君?

「江戸川コナン。」

「はい。」

・・・やっぱり、コナン君かぁ。

あちこちから、笑い声が聞こえる。

コナン君を見たらそんなこと言っていられないんだからね。

コナン君が、壇上に上がる。少し女子達がざわめく。

「ちょっと・・・、彼かっこよくない?」

ふふっ、ほらほら〜。高校でももてそうだなぁ、コナン君。

そうだ。せっかくみんな集まったことだし、少年探偵団・・・。

そんなことを考えていたら、江戸川コナンの話はおわっていた。

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「コナン。相変わらず頭良いんだな！！」

「そりゃ、どーも。てか、俺クラス何組だ？」

三人がニヤニヤする。代表して歩美が答える。

「１－Ｃだよ。」

何でこいつらはそんなにニヤニヤしてんだぁ？
ま、それはおいといてこいつらは何組なんだろうか？

「ふーん。で、お前らは？」

さらに、ニヤニヤが増した気がする。
そのとき、灰原が口を開いた。

「・・・１－ｃ。」

おいおい、まさかみんな一緒とかの冗談は無いよな？

「僕たちも。」

「みんな。」

「1－cだぜ。」

まじかよ・・・。まぁ、いっか。

「とりあえず、教室行きましょ。」

「うん。」

★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆★

「えー、まず俺の名前は相沢聖だ。お前らの担任だ。」

・・・つまんねぇーな。となりにいる、灰原を見た。

偶然目があい、灰原が赤くなる。何だあいつ。熱でもあんのか？

「・・・んじゃあ、一人ずつ自己紹介してもらおうか。

番号順にしろ。1番、明石。」

「はい。俺の・・・。」

少しすると、俺の番が来た。

「6番、江戸川コナン。」

女子がざわめく。

「はい。名前は、江戸川コナン。帝丹小のやつは知っていると思うが、中学にあがるとき

外国に留学した。一応、英語、ドイツ語、日本語と3各語は話せる。将来の夢は探偵になることだ。以上。あと、名前の突っ込みはなしで。」

「江戸川君帰国子女だってぇ～。」

「かっこいいなぁ・・・。」

俺が終わった後もどんどん進んでいく。

「19番、灰原哀。」

「はい・・・。灰原哀よ。中学では、科学部に所属していたわ・・・。将来の夢は特になし。終わりよ・・・。」

「かわいくね、あの娘。」

「あぁ、美人だな。」

この二人が、学校中いや他の学校でも有名になったのはいうまでもなかったと・・・。

01，入学式（後書き）

読んでくださった方ありがとうございました。
こんなの読んで、体調崩さないでくださいね。

兄「安心しろ。だれもてめぇのなんてよんでねぇから。」

・・・無視しましょ。

感想等待ってます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2898y/

時の流れ

2011年11月6日20時37分発行